東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2011年2月4日

ビドアと迷信

親愛なるムスリムの皆様。イスラームはアッラーの位階において最後の、そして完成された教えです。イスラームを信じて従い、崇高なる創造主のご命令を正しく実践しようとするムスリムは、イバーダと信条においても同様に完璧であるべく努めるべきです。ムスリムはアッラーとその使徒を信じ、この世界で行なった事に対して責任を負うことを認識し、この信仰のもとで態度や行動を一定の規律に結びつかせ、信仰と行動が一致している人のことを言うのです。

ただ、クルアーンやスンナが推奨しているような信者となるために必要なこの特質は、いつでも、預言者ムハンマドの時代の活気を保ってはきたわけではありません。時代と共にイスラーム地域が拡大してきたことに伴い、ムスリムが持っていた純粋な混じりけのない信仰と実践の世界は、様々な信仰や実践と共に異なる形で顕されるようになってきました。イスラームの精神に反するこの変化は、一般的に「ビドア」と呼ばれます。

親愛なるムスリムの皆様。辞書において『ビドア』とは、例のない何かを行なうこと、全く新しい何かを作り出すこと、全体的な思惑に反する行動をとること、それまで前例のない何かを発明すること、といった意味とされています。

宗教用語としてビドアは、教えの本質に含まれず、イスラーム法に基づく根拠も示されず、スンナに反することとして行なわれる事柄です。言い換えるなら、宗教的命令が完成された後、クルアーンの明白な判断、預言者ムハンマドのスンナ、教友やその次の世代の人々の一般的な見解に完全に反するものとして顕れた状態、態度、所作などを意味します。この二つの定義から理解されるように、後になって顕れてきた事柄、態度がビドアとなるには、教えの内容に反するものであることが条件となります。

迷信とは、運のよしあしに関して信じられ、論理や真実に反する誤った信条です。アッラーはクルアーンの次の言葉で、この種の信条を絶対的に禁止しておられます。「あなたがた信仰する者よ、誠に酒と賭矢、偶像と占い矢は、忌み嫌われる悪魔の業である。これを避けなさい。恐らくあなたがたは成功するであろう。」（食卓章第90節）

親愛なるムスリムの皆様。イスラーム社会では残念なことに、時にビドアや迷信を目にすることがあります。例えば、聖地とされる場所に、願い事のために布を結びつけたり、墓所でろうそくを灯したり、邪視に対し鉛を鋳込んだり、イードの間に婚礼を行なわなかったり、ふくろうが鳴くのを不吉だと見なしたり、墓所に奉納をしたり、歩けない子供の足にひもをつけてモスクの周囲を巡ったりすることなどです。しかしイスラームによるなら、内面も外面も清らかで、信仰と実践が迷信からかけ離れ、宗教とビドアや迷信を混同しないしもべとなることが必要なのです。

過去から今日にまで引き継がれてきた、理論や科学にも反するこの種の信条を、教えと同等の価値があると見なすことはやめましょう。イスラームの概念に害を与えるものであることを忘れないようにしましょう。クルアーンとスンナにしっかり結びつきましょう。今日のフトバを、あるハディースで締めくくります。「あらゆる種類のビドアは、正しい道から遠ざかることである。」